



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と
ひ
と
ツムぐ学生

第54号

2017年8月24日

編集 竹内稔博

(東浦中学校主幹教諭)

夏休みわくわく算数・数学教室特集号 No.33

～そうだ、夏は、東浦へ行こう！ 東浦の子どもたちのために、
そしてSPさん自身の教師力向上のために～

出迎えてくれることの心地よさ

「自分は大事にされている」と思う心をはぐくむ



午前9時10分、さわやかな挨拶が、片葩小の昇降口にこだまします。すでに気温は30度を超えているので、とても暑い場所です。立っているだけでも汗が出ます。

でも、「早くクーラーの効いた部屋に行きたいな」とは思わない。なぜなら、そこには、子どもたちの満面の笑みがあるから…。

この日は6名のSPさんが出迎えをしてくれました。すごくさわやかな挨拶を、子どもにしてくれます。もちろん、SPさんから先に挨拶します。子どもたちにとって嬉しいことであることは、間違いないでしょう。笑顔で元気に、昇降口でこんなに多くの大人に「出迎えて」もらえるのですから。「おっ、元気だね」「ひまわりの服、かわいいね」「よく来たね、がんばろうね」そんな声をかけてくれます。子どもを送ってくださった保護者の方も、この出迎えの様子を見て安心しています。にっこりされて「宜しくお願いします」とSPさんに声をかけていきます。

3階まで上がると、この日は田中SPさんが、入り口にいてくれました。手には座席表。1人1人、声をかけて座席を案内してくれます。腰をかがめて。ここでも、1人を大事にする教育があります。子どもは思っています。「自分は大事にされているなあ、来て良かった」と。

こういうSPさんの関わりは、子どもたちの「自己肯定感」を高めてくれます。これらのことがずっとできる…、価値ある事業であることは間違いありません。

